2025年6月1日復活節第7主日説教

旧約聖書代 使徒言行録16章16—34節

ヨハネの黙示録22章12—14、16—17、20—21節

ヨハネによる福音書17章20—26節

本日は復活節第7主日であり、昇天後主日でもあります。新しい聖書日課でも、本主日の福音書は、A年、B年、C年共通して、すべて「ヨハネによる福音書」17章です。若干区切りが変わりましたが、その17章を3年に分けて読むようになっています。今年はC年ですから、イエス様が「また、彼らについてだけでなく、彼らの言葉によって私を信じる人々についても、お願いします」（ヨハネ17:20）とある通り、弟子たちの言葉によって信じるようになった人々、すなわち現在のわたしたちも含めた、教会のために祈ってくださっている部分です。

イエス様は、教会のために何を祈ってくださっているのでしょうか。日本語訳ではわかりにくいのですが、それは「～のために」と記されています。第一は、「父よ、あなたが私の内におられ、私があるあなたの内のように、すべての人を一つにしてください」（ヨハネ17:21）とある通り、「すべての人」が一つとなるためです。この「すべて」が、イエス様を信じる人すべてか、それに関係なくすべての人か解釈が分かれていますが、前者の方だと思います。なぜならば、第二に「彼らも私たちの内のようにしてください」とあり、そこから第三に「そうすれば、世は、あなたが私をお遣わしになったことを信じるようになります」ともあるからです。イエス様は、まだ信じていない「世」のために、信じる人々が一つとなるようにと願っているのです。その部分にある「彼らも私たちの内のようにしてください」は、表現が極めて簡潔ですが、父である主なる神様と神の子であるイエス様との関係の中に、信じる人々も入るためということなのです。それは、天地創造の初めからある本来の関係とも言い換えることができます。なぜならば、イエス様は、天地創造の初めから、主なる神様とともにおられた方であるからです。

さらに目的があります。それは「世は、あなたが私をお遣わしになったことを信じるようになります」とある通り、「世」がイエス様を遣わした、主なる神様を信じるようになるためということなのです。「世」という言葉は、ヨハネ福音書にはたくさん出てきます。それは、今、わたしたちが生きている世界のことであり、またイエス様を通して主なる神様を信じていない世界であり、またそうであるがゆえに主なる神様が救おうとされている世界です。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ3:17）という言葉が有名ですが、ここでも、「世」が主なる神様を信じるようになってほしいとイエス様も祈っておられるのです。

22節以降に入ると、イエス様は、「あなたがくださった栄光を、私は彼らに

与えました。私たちが一つであるように、彼らも一つになるためです」と、「栄光」という言葉を加えて、信じる人々が一つとなることを再び願います。「栄光」とは、いろいろな意味がありますが、ここでは主なる神様の本質ととらえればよいと思います。ただ、「本質を与える」と言い換えると、少し不思議に感じますが、主なる神様の本質とは「愛」であるからです。それは、23節の「私が彼らの内におり、あなたが私の内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたが私をお遣わしになったこと、また、私を愛されたように、彼らをも愛されたことを、世が知るようになります」とある通り、「一つ」とは、「愛」における一致です。イエス様が派遣されたことも「愛」によることであり、「世」が最も知るべき事柄は、その「愛」に他ならないと述べられているのです。また、その愛は、天地創造の前からある「愛」なのです（ヨハネ 17：24）。イエス様がこの祈りの箇所の最後に「私は彼らに御名を知らせました。また、これからも知らせます。私を愛してくださったあなたの愛が彼らの内にあり、私も彼らの内にいるようになるためです。」（ヨハネ 17：26）と祈ってくださっている通りです。

来週は教会の誕生日ともいわれる聖霊降臨日です。わたしたちの教会にとっては、創立記念日でもあります。その教会が何のためにあるか、それはいろいろな説明されますが、本日のイエス様の祈りから言えば、そこに集められる人が「一つとなる」ためです。しかし、二千年の教会の歴史を振り返ると、それは一度も達成していません。最初の最初の一瞬だけは、使徒言行録 2 章 46 節にある通り一つであったと仮定する考えもありますが、それ以降の歴史はそうではありません。教会は、このイエス様の祈りの課題を、まだ達成していないのです。まだイエス様の出された宿題を終えていないのです。

エキュメニカルという言葉が 20 世紀になってはじめて登場しました。教会は、2000 年たってやっと、イエス様が出した宿題をやり始めたのです。今でも、そのことに関心のない教会も数多くあります。自分たちの伝統を重んじるがゆえに、他の教会とのかかわりに関心を持たない場合があるからです。世界には紛争、争いをはじめとして、様々な問題があり、それゆえに、エキュメニカルとは、教会一致だけではなく、世界の諸問題の解決を含めるとする考えもあります。エキュメニカルという言葉においても、「内」なる事柄が先か、「外」なる事柄が先かという、人間の願望が入ってしまうのです。確かに神様が愛し、救おうとされている「世」で起きている事柄の解決は大切です。しかし、その解決の仕方によって一つとなることも左右されてしまう時、一つの意味が変わってしまいます。しかし、ここでイエス様が祈ってくださっているのは、「父」と「子」（と「聖霊」）の愛の関係のように、教会が一つとなることです。まず、それが教会において目指されなければ、伝統の保持も、内も外の区分も目的を失うのです。すべての人が、何の妨げもなく、礼拝に集まれること、そして、その礼拝において主なる神様の愛が感じられ、その愛に基づいて交わりが形成されること、そのいまだ達成できていない目的を、これからも目指し続けたいと思います。イエス様の祈り支えられながら続けたいと思います。